

「生駒山の砂防堰堤（大阪府八尾土木事務所提供）」



本市の治水の取組みについてー 生駒山麓の西側に位置する本市は、生駒断層帯が並行して南北に走っており、加えて、傾斜度30度以上の急傾斜地は山が所ある。土石流危険の溪流は37か所あり、そのうち18か所はいま

だ砂防堰堤が設置されていない。平成26年8月に発生した広島市の土砂災害では多くの人命が奪われ、甚大な被害が発生したが、生駒山地も非常に類似した地形であり、早急な対策が必要である。このような山麓の土石流の状況を強く認識されて、昨年10月、野田市長の呼びかけで、生駒山麓に係る各市の市長と共に、防く施策である土石流対策の促進に向けた行動として、大阪府都市整備部長との会談に臨まれたとお聞きした。野田市長はどのような思いを持って会談に臨まれたのか。市長 山麓に目を向けると、平野部の進捗に比べて土砂災害対策、特に防く施策、ハードの施策は遅々

会派の主張

（本会議の質問など）

三面から六面の内容は各会派が責任をもって掲載しています。

公明党

個人質問 川光 英士

個人質問 馬場 徳子

生駒山における土石流対策促進への市長の思いを問う!!
市内在住の外国人住民へ向けたやさしい日本語の使用を!

として進んでおらず、近年の我が国各地における土砂災害発生状況に照らし合わせると、土砂災害対策、とりわけ土石流対策を強力に進めていく必要性を感じずにはいられない。私は、地形的に類似し、課題の認識が共有できる、私を含む生駒山麓の5市長で、大阪府の都市整備部長との会談に臨んだ次第である。

新博物館整備についてー 問 これまで我が党は、新博物館法の趣旨にのっとり、地域の自然や歴史を学べることや、地域資源を継承すること、また、デジタルアーカイブ化などの手法で、より多くの人が郷土に誇りを持てるような博物館建設を訴えてきた。新博物館建設の槌音とともに、市民の皆様とともに協働で郷土の歴史、文化芸術を軸に、町

の魅力をよりよく高め、地域活性化を図っていくことが大切であると考え。市としてどうまちづくりを進めていこうとしているのか。市長 新博物館を中心に、他の文化施設や、市内外の施設と連携することで、町全体をつなげて活性化する、まちづくりの拠点としての役割を担い、郷土の歴史と文化を未来に守り、つなげる登録博物館として整備してまいります。

やさしい日本語の必要性 及び今後の取組みについてー 問 2023年4月末の本市における外国人住民は1万9797人で、市の人口の約4%を占めており、国籍も85か国と多様化が進んでいる。そのため、外国籍の児童生徒も増加している。国や行政の案内や通知は言い回しが難しく、特に外国住民の方には分かりにくく、

やさしい日本語を広く活用することが望まれている。本市において、やさしい日本語の必要性をどのように考えているのか。また、各部署から多種多様な案内や通知が発出されているが、このようなものに対して、やさしい日本語を使用する庁内での意識づけも必要ではないか。

人権文化部長 多くの職員にやさしい日本語を知り、正しい使い方が身につくよう職員研修に取り組むなど、様々な機会や手法を工夫して意識づけを行い、庁内でのやさしい日本語の活用について関係部局と連携して取り組むことで、外国人住民も日本人住民も、共に暮らしやすい多文化共生のまちづくりを進めていく。

緊急通報装置レンタル 事業についてー 問 2023年3月末現在、本市にお住まいの65歳以上の高齢者は13万4745人で、人口の28.1%を占め、今後、高齢化が進むだけでなく、高齢者の独り暮らしの方が増加すると予想される。近年、携帯電話を持つ方が増え、振り込め詐欺の対策などで、固定電話を解約される方が増えたこともあり、緊急通報装置の設置利用者が減少している。他市では固定電話を持たない高齢者のために、携帯電話の回線を利用するサービスや、携帯型緊急通報装置のレンタルなどを始めている。本市でも、固定電話を持たない方でも利用できる緊急通報装置を導入すべきと考えられるがどうか。

福祉部長 他市では既に携帯型装置を導入している事例もあることから、これらの事例を参考に、本市での導入手法について検討し、財源確保に向けて引き続き関係部局に働きかけていく。

自由民主党

個人質問 浅川 健造

市民の安全安心につながる重要な事業を進めるため、透明性のある人札を強く求める!!
市民に満足してもらえよう!心掛けるべき本市委託業務!!

ー建替え予定の住宅建設工事についてー 問 市と市長名で職員を告発したことは、新聞各紙が記事として大きく取り上げられた。その結果 (次頁につづく)